

校報 ふれあい

第287号
R3. 6. 22発行
発行者
雲南市立田井小学校
校長 井上 孝弘



プール開き [6月21日(月) 5校時]

全校児童11名でスタートをしました令和3年度の1学期も残すところ4週あまりとなりました。7月20日(火)の終業式を気持ちよく迎え、元気に夏休みを過ごすためにも、これまでの学校生活や学習のまとめをし、自分自身を振り返る大切な時期になりました。

そして、暑さも本格的になり、6月21日(月)にはプール開きを行うことができました。コロナ禍のため、制限の多い水泳指導になりますが、子ども達が気持ち良さそうに水に親しむ姿がたくさんにみられました。

プール掃除

プール開きのちょうど3週間前、6月1日(火)に全校児童でプール掃除を行いました。4年生以上が大プールを、3年生以下は小プールを担当しました。少ない人数で大変でしたが、約2時間の作業の末、見違えるほどきれいなプールになりました。



地域の方5名にもお手伝いいただき、本格的な高圧洗浄機の助けもあって時間内に終わることができました。ありがとうございました。

食に関する指導

6月は食育月間です。食べることは生きる上での基本であり、成長期の子ども達にとって、健康な心身をはぐくむために欠かせないものです。そこで、今年度も、毎日の給食時間や栄養教諭(斐伊小:伊藤先生)の訪問による食の学習を通して、望ましい食習慣を身につけていきたいと思います。家庭や地域でも、食に関することを子ども達との話題にいただければ、より効果的だと思います。ご協力のほどよろしくをお願いします。

1学期の食の学習予定

6月2日(水) 3・4年生『バランスよく食べよう』

6月23日(水) 1・2年生『食事のマナー』

7月14日(水) 5・6年生『お弁当の日に向けて』

栄養教諭による3・4年生の学習

食べ物の3色(赤・黄・緑)の役割を、栄養戦隊食レンジャーカード等を使って児童に分かりやすく説明をしてくださいました。また、歯と口の衛生週間にあわせて、カムカム実験を行い、食べ物の栄養や味は、よく噛まない(約30回)出てこないことを体験しました。「よく噛むと甘くなった。」「おいしい。」等の感想があり、よく噛んで食べることへの意欲が高まったのではないかと思います。



ふれあい運動会



5月21日（金）、「ふれあい運動会」を開催しました。前日から雨になり、当日未明まで降り続く天候でしたが、コロナ禍で地域の方をお招きできない中、子ども達の声だけでも地域に響かせたい思いが通じたのか、何とか校庭で実施することができました。朝早くから準備してもらった先生方、そして保護者の皆様には、感謝しかありません。ありがとうございました。



予定通り9時に入場行進がスタートし、開会式では、5年生2人が大会スローガン「**全集中！あきらめないで協力だ！！田井っ子心を燃やせ！最後まで！！**」を堂々と発表しました。廣野審判長の演技上の注意の後、6年生2人の選手宣誓、6年生の愛純さんが代表を務めたラジオ体操と続き、その後競技が始まりました。



短距離走は1・2年生が80m、3年以上は100mを全力で走り切ることができました。

次のダンスは、4月から練習してきた成果をしっかりと発揮できるものになり、保護者の皆様にも協力いただき、とても賑やかな時間になりました。続けて、「仲良く！走って、投げて！！」も保護者の皆様の協力で楽しい競技となりました。



その後の「ゴーゴーゴーの歌」と「応援合戦」

は、まさに田井小ならではの種目であり、田井小の伝統をも感じることのできるものでした。少人数であるが故の子ども達一人一人の役割の大きさ、そしてそれに精一杯応えようとする一人一人の姿、中規模や大規模の学校では見ることのできない「たくましい」子ども達一人一人の姿だったと思います。



そして、全校種目「くぐって、とんで、大変身」は、人気アニメのキャラクターに校長と教頭を変身させる和やかなものになりました。

ラストも全校種目の「色別リレー」です。多い子どもは3回走ったり、1年生と6年生が一緒に走ったりと、これまた田井小らしさを感じる種目でした。デッドヒートの末、決着した時の子ども達のやり切った表情はとても印象的でした。



閉会式の中で、6年生のはなさんは「みんなの協力でみんなで作り上げる運動会になった。」と語り、大谷PTA会長からは、「コロナ禍の中、大人に元気を与える運動会になった。」と話していただきました。まさにそのとおりであり、子ども達が4月から積み上げてきた「準備と練習」を最大限発揮できた運動会になったと思います。

ただ、それまでには、「できないこと」や「うまくいかないこと」など様々な困難があったと思います。自分一人の力や仲間と力を合わせることで乗り越えたこともあったと思いますが、保護者の皆様のお力も大きいものがあったと思います。「準備と練習」のために疲れ切って帰ってくる子ども達の心と体に、毎日毎日「エネルギー」を注入していただけたことで乗り越えられたことも多かったはずです。ありがとうございました。

来年こそは、地域の多くの皆様にも元気を与えることもできる運動会になることを願っています。



吉田コミュニティ・スクール

5月26日（水）、吉田中学校にて今年度第1回の吉田コミュニティ・スクール学校運営協議会（以下「運営協議会」）が行われました。

運営協議会は、吉田町内の各小中学校及び各保育所のPTA会員と教職員、各地区振興協議会長、地域コーディネーター、主任児童委員等で構成され、各小中学校及び各保育所の教育・保育目標の実現のため次の3つのことの達成を目的としています。



- ① 地域と連携しながら、小規模の良さを生かし、保・小・中の一貫した保育・教育をとおして、吉田を愛し、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する。
- ② 保護者及び地域住民等の学校・保育所運営への参加の促進や連携の強化を進め、吉田に根ざした学校や保育所をつくる。
- ③ 学校と保育所との連携を強化して、学校と保育所が地域と一体となって、将来地域社会の発展に様々な形で貢献する意欲と態度を備えた人材を育成する。

そして、運営協議会の目的を達成するため、今回は、「学校・保育所経営計画に関すること」「保小中連携事業とそれに関する教育・保育課程に関すること」について基本的な方針を説明し、委員さんからご意見をいただきながら、承認を得ることができました。

「学校・保育所経営に関すること」については5月号でお伝えした学校経営方針について説明しました。

その中で、小規模校は、より多くの同級生等と関わることで学習を深めていったり、様々な同級生等の個性について理解を深めていったりすることができにくい面があるので、吉田小をはじめ、近隣の小学校との連携・交流をさらに進めてほしいという意見をいただきました。

田井小らしさ、小規模校ならではの「強み」については、最大限生かしながら、逆に、小規模校である「弱み」については、できる限りカバーしていくことで、「子どものよりよい育ち」を促していく必要があると改めて思いました。

「保小中連携事業とそれに関する教育・保育課程に関すること」については、「吉田中校区で大切にしたい4本柱」について説明しました。

「大切にしたい4本柱」とは、「外国語教育の充実」、「たたら・炭焼き、間伐体験」、「スキー教室」、「合唱」のことであり、体験活動の充実、地域の方との交流、本物との出合いを意識した吉田町内の各小中学校で共通の連携事業・教育課程のことです。

それぞれの内容については、今後子ども達の様子も含めてお伝えしていきますので、吉田中校区の特色ある活動として、ご理解いただきご協力いただきますようお願いいたします。



4本柱「合唱」の取組

4本柱の一つである「合唱」の取組みとして、6月8日(火)に予定されていた雲南市連合音楽会に向けて練習を重ねていました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大が続き、本市においても感染に対する不安が大きくなったことから、音楽会が中止となりました。練習を重ねていた子ども達、指導を続けていた教職員ともに大変残念な思いをしましたが、発表の機会を7月2日(金)の授業公開日に設けることになり、それまで練習を続けることになりました。また、吉田町内3つの小中学校の発表の機会をそれぞれ動画におさめ、それぞれで鑑賞し合おうということにもなりました。

「練習」、「発表」、「鑑賞」それぞれの様子についてお知らせしたいと思います。今回は「練習」についてです。

《合唱練習》

6月1日(火)には、例年ご指導いただいている田中義浩先生と菅原史子先生に来ていただき、合



唱練習を行いました。まだ正式に連合音楽会の中止が決まっていない時でしたので、1週間先の音楽会に向けた仕上げの練習となり、見違えるほど歌声が素敵になりました。発表本番は1ヶ月ほど先送りになりましたが、近づいたら再度ご指導いただく予定にしています。

実践発表

6月7日(火)に県教委主催の「コーディネーター研修(東部・隠岐会場)」が松江合庁を主会場に行われ、本校の小田地域コーディネーターが実践発表しました。地域の皆様にお世話になっている「学校支援ボランティア」の様子を中心に、学校と地域をつないできた地域コーディネーターの役割とともに、「田井小学校を

核とした地域づくり」への思いを感じ取れる発表であり、大いに参加者の参考になったと思いました。

また、振興協議会の川角会長をはじめ、多くの地域の方に「応援団」としてご来場いただきました。ありがとうございました。



校長室より

～6月4日全校集会での話～

皆さんがよく知っている「そうさん」の歌を作ったのは、まど・みちおさんという詩人です。

この歌について、まど・みちおさんは、シマウマやライオンなどの他の動物たちがゾウの子どもに話しかけている歌だと言っています。また、この歌の意味について、まど・みちおさんは、他の動物たちがゾウの鼻が長いことをからかって意地悪している歌だとも言っています。でも、その悪口に対して、ゾウの子どもは「そうよ かあさんもながいのよ」と平気な顔で応えます。周りから見たらほかと違って変だと思っても、自分の大好きなお母さんと同じだから何も恥ずかしくない。自分のこともお母さんのことも大好きだよと、ゾウの子どもは堂々としています。ゾウとして生まれたことを誇らしく思っています。自分が自分らしく生きられるということは、とても幸せなことです。それを「そうさん」の歌は教えてくれています。

今後の主な行事予定(～7/31)

<6月>

29日(火) お話を楽しむ会

<7月>

- 2日(金) 授業公開日 救急蘇生法研修
- 5日(月) 家庭学習パワーアップ週間(～11日)
- 6日(火) 支援ボランティア(ラベンダートーチ作り)
- 14日(水) 三浦スクールカウンセラー来校
栄養教諭訪問
- 18日(日) うんなん家庭の日
- 19日(月) 給食最終日
- 20日(火) 終業式
- 26日(月) 家庭訪問